第95号
平成23年4月13日発行
群馬県山岳連盟
〒371-0005 前橋市堀之下町494-2
女屋　等志方
TEL 027-269-4570
FAX 027-269-4583
編集発行人
群馬岳連編集委員会　岡安茂能
印刷所　朝日印刷工業㈱

山岳ぐんま

平成二十二年度冬山合宿

群馬岳連遭難対策委員長　小暮文彦

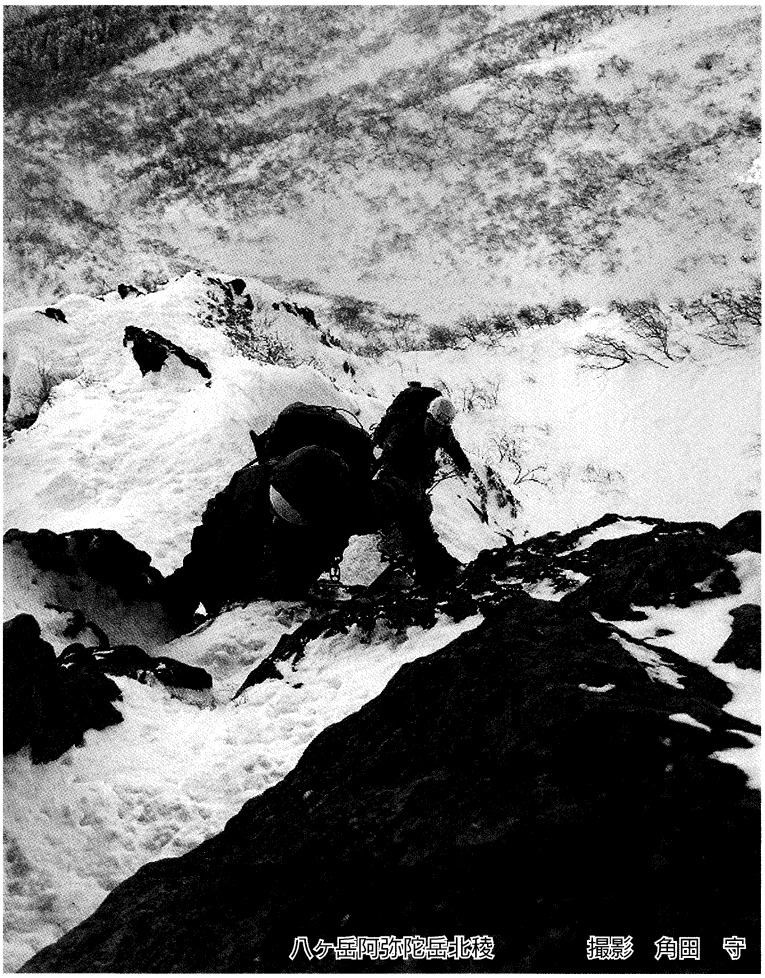
平成二十二年 冬山合宿 検討会録

平成二十二年十二月十四日、冬山合宿検討会を群馬県青少年会館にて行った。

検討会に参加した山岳会は合計五団体、実施計画数は総計六パーティーであり、益々の盛況…とはほど遠い状況ではあったが三十六人分の計画が検討され、山域の情報交換、装備・食料計画への意見交換や知識の勉強、無線の交信時刻などについて確認し、無事故の合宿となることを誓い合った。

団体名・山域山名・計画人数は以下のとおり。

【太田山岳会】北アルプス蝶ケ岳・五名、【大間々山岳会】南アルプス北岳・五名、【境町山の会】八ヶ岳・六名、【前橋山岳会】北アルプス槍ヶ岳・六名、八ヶ岳・八名、【松井田山岳会】八ヶ岳・六名


八ヶ岳阿弥陀岳北稜　撮影　角田　守

また、先の十一月三十日に立山国見岳での雪崩遭難に接し、救助活動に協力した伊勢崎山岳会・前橋山岳会会員からの報告があった。実際に登山するものにとって非常に参考となる内容であった。

以下、報告の全文を記す。※印部分は口頭での補足説明である。

《立山　報告書》

石井 達幸記

日時

平成二十二年十一月二十九～三十日

メンバー

石井達幸・内田誠（伊勢崎山岳会）、毛呂憲治（前橋山岳会）

計画

二十九日扇沢駅より乗物で室堂（テント）→雷鳥沢スキー滑走　三十日雄山登頂、山崎カール滑走→室堂→扇沢駅

行動

二十九日扇沢駅より強風および雪。室堂は視界十m以内の吹雪。室堂ターミナルすぐ近くの広場に幕営、停滞。三十日晴れ。降雪と六最終日の六都合で国見岳に変更。八時半ごろ出発。八時五十分国見岳北東斜面にて雪崩発生。救助及び現場の撤収が

十一時前後。室堂に戻りテント撤収、下山。

雪崩発生と救助

●八時五十分、国見岳を一つ隔てた道路よりの斜面で目撃。雪崩が止まった後にデブリから複数の人影らしきものが浮き出る。先行パーティーの二人と共にデブリに駆けつける。●自力脱出したものがおり、埋没者一人を掘り出す。下半身埋没の一人が九時頃レスキューに通報●先行の二人と埋没者一人を掘り出す。頭部に出血、呼吸あり●五人でビーコン・プローブを使用、埋没者を捜索。二m下の埋没者を掘り出す。手足骨折？心肺停止状態。捜索十五分掘出三十分位●通報より二十分後レスキューヘリ到着。遭難者を順次搬送。●最後の一人を捜索するも特定に手間取り、あらぬ所を掘る。掘る所を変更、ビーコンで再捜索、斜面の約十m上に埋没者のスノーシューの一部を発見、多人数で掘り出すも心配停止状態。●五人中四人がヘリコプターにて搬送、通報をした一人は脚骨折状態で救急車にて搬送●埋没者・救助者の散らばった荷物を道路に集め、富山県警に事情聴取を受けて解散が十一時

ナイフリッジ・キノコ雪（権現岳東稜）

救助の課題

①二m以下の埋没者を掘り出すのは容易ではない②ビーコンの切り替えはハッキリ確認する（※指示・指揮する人、捜索のリーダーを決めなかった）③ビーコンのみならず視認も必要だった（※スノーシューの発見が早ければ良かった。また下から上へ見上げる位置での捜索は難しいと感じた）④セーフティエリアでの見張りも必要⑤複数埋没者を想定したトレーニング・ビーコンの理解をすること

※尚、埋没しなかったメンバーが放心状態になっており、捜索以外に必要な電話連絡等も一切できない状態であった。

心境・感想

一～二日の降雪により、どの山もノートラック。乗物の運行時間とラッセル行動を考え、雪崩の懸念から雄山を諦め国見岳に針路変更をしたら、目の前で雪崩が起きていた。トレースは先行パーティーのもののみ。出発が早かったらこちらが埋没したり雪崩に巻き込まれていたかもしれない。浄土山他の場所では新雪を楽しんでいるスキーヤーやボーダーがいた。大降雪の後のコンディションは見極めが難しいと思い知った。一番無難な回避法は「降雪直後」入らないことである。

目の前で雪崩が起きて人がのまれ、訓練や想定はしつつも身近にはないだろうと思っていた事態が唐突に現れた。突然の事に緊張と恐怖で思考も冷静でない状態で探索・穴掘りをしていたのを思い出す。登山における悲劇を少しでも起こさないための準備や心がけを真に認識させられました。

平成二十三年 冬山合宿 報告会録

平成二十三年一月十八日、検討会と同じく群馬県青少年会館にて行った。

今シーズンの年末年始はあまりにも天候が悪く計画の中止・変更をしたパーティーが多くみられた。【太田山岳会】中止、【大間々山岳会】北岳から鳳凰山に変更、【境町山の会】八ヶ岳から日光白根山に変更、【前橋山岳会】槍ヶ岳から八ヶ岳に変更、【松井田山岳会】計画どおりに八ヶ岳で八～十日に実行できた。

※なお【前橋山岳会】は検討会の計画と八ヶ岳で八～十日に実施。

冒頭書いたが今冬は天候に恵まれなかったことにより、報告の内容には手足の冷えに関するコトが多かったのが特徴的。装備・食料については特に掲げられなかった。

冬山合宿は、この数年、毎年十団体前後で計画されていたが今冬は半数の五団体であった。たいへん残念というしかない。二十三年十二月は実施計画が二桁になることを期待します。

第一回セルフレスキュー講習会に参加して

前橋山岳会　手島直樹

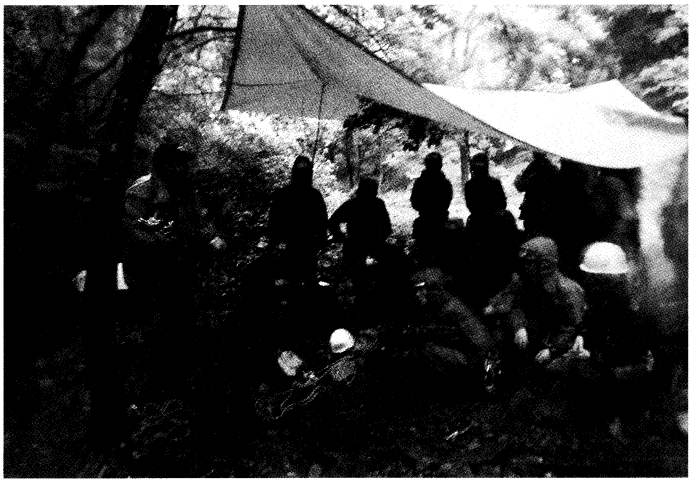
生憎の雨の中で行われた第一回の講習会。レスキューということを考えれば、雨や風を言い訳にしていられないのだが、寒さも手伝って中々ハードなものとなった。

私は高校時代に山岳部に入部してからというもの今に至るまで約十年間、縦走を主とした山登りをしてきた。アルパインに興味を持ち、三カ月程前に前橋山岳会に入会した。岩登りの経験は皆無に等しく岩場でのレスキューに関しても無知に等しかった。そんな岩初心者の私がこの講習会に参加を決めたのは岩を安全に登り、降りる手段を一つでも多く持っていたかったからだ。様々なケースでの救助技術を学ぶことを通して、自分の登攀技術を少しでも高めたいと考えたからだ。

講習は8の字結び、フリクションノットなどのロープの結び方から始まった。一つ一つの結び方の特徴や弱点を理解した上で、色々な場面に応用できるようにしておくことが重要である、とのこと。また、何回巻いたら利くというのは使うザイルやその時のコンディションによって異なるので、臨機応変に対応する必要があることも付け加えられた。言われてみればどれも当然のことのように思えるのだが、本などを見てマニュアル通りにやってしまうことがあるので戒められた感があった。

次に、ヒルが大量に取りついている壁からロープを三本垂らして懸垂下降の講習。「懸垂なら大丈夫だろう」と思っていたが、雨中での懸垂は初めてで全くロープが滑らず四苦八苦。バックアップの巻きつけの回数を減らすなどの工夫が必要であった。その後、トップ滑落時の自力登攀、セカンドの脱出法、引き上げについて学んだが、フリクションノットの登場の多さに驚いた。いかなる場面にも形を変えて自由自在、強い味方である。

講習を受けての感想を一言で表せば「面白かった」である。引き上げの原理は物理の授業でやったような内容であったし、システムを分解すれば同じものがいくつも出てくる。実際の岩場に行って、今回学んだ内容は使いたくないし、使わなくて済むようにクライミング技術そのものを向上させなくてはならないのだが、知っていて岩に取りつくのと知らないで登るのでは精神的に大分違うような気がする。自分の技量をカバーし、パートナーからの信頼を少しでも得るために今回学んだ内容をしっかりと復習しておきたい。



《講習会メモ》

開催期日

平成二十二年五月二十三日(日)

会場

裏妙義ロックガーデン

講師

町田幸男（日山協遭難対策常任委員副委員長、クラブΣ）、他群馬岳連指導員

第六十五回 国民体育大会関東ブロック 山岳競技大会を終えて

群馬岳連競技委員会　松田龍彦

本年度関東ブロック担当県は千葉県担当であったが、本国体担当のためブロック大会を群馬が担当することになり、昨年から事前準備がスタートした。しかしまだ先の話とタカをくくっていたが群馬で最大の問題はブロック大会を実施する競技施設が県内になく、大会施設をどうするのかで県内競技委員会や理事会で検討を重ね、恒久競技施設は昨今の経済事情からとても県に要望は難しい、仮設で施設要望、商業施設利用、県外施設利用と、いろいろ検討を重ねてブロック大会を県内のどこで開催するか、この二点に頭を悩ませているうちに月日が過ぎてしまった。開催場所条件は屋内でリードと、ボルダリングができて観客動員ができる、交通が便利、付帯施設あり諸会議ができる条件で、最終的に県総合スポーツセンターサブアリーナを最終候補として会長、副会長、理事長に尽力していただき教育委員会、体育協会、交渉結果最終決定をした。競技役員と審判員育成は赤城国体以来わずかな人員が資格取得していたが、大会を開くほどの人員は確保できず、一月競技委員会関東地区ブロック研修会で、必要人員を確保するため若手岳連会員を中心に審判員、競技運営員資格取得と、研修をお願いし当日都合のつかない人のため、四月に特別研修会を開催し、なんとか人員確保ができ、競技役員運営研修会を大会に向け何度か開催し競技内容、運営方法、組織としての役割分担を把握し、来県される選手のパフォーマンスを乱すことのないように運営できる体制を敷いた。六月に入ると各県からの参加申し込みが県体育協会に届き、岳連では参加資格確認（各県予選会出場確認、ふるさと選手、参加年齢、選手登録）を行ったが特に各県予選会報告書に問題が散見された。今後は各都県事務局、競技委員長、監督そして理事長がしっかり確認してブロック開催県に書類送付をお願いしたい。ルートセットは岡野　寛、柘植　求、堀米　悟の三名で暑くうだるような体育館で選手のパフォーマンスを最大限に引き出すルートセットをいろいろ検討、ボルダでは群馬名物福だるまホールドが出現し選手、監督、観客をあっと言わせた。今回の特色は競技日程を一日目にボルダリングとリード競技を行う（赤松委員長提案）（今までは一日目リード、二日目ボルダ）方式と、監督会議でスタート順抽選会を関東地区山岳連盟総会（いずれも二月の関東地区山岳連盟総会で承認）で実施、これにより大会プログラムに種別スタート順が載せられたことが大きく変わったことである。大会競技成績は、開催県であり多大な経費をかけて開催したが、残念ながら群馬県は三種別共ブロック通過はできなかった。通過できなかった原因を分析し、来年度に向けて努力する必要があるが選手、監督の皆様は本当にお疲れ様でした。

ブロックを通過した県は成年女子（神奈川、東京）、少年男子（神奈川、山梨、茨城）、少年女子（茨城、埼玉、山梨）がそれぞれ十月二日から開催される第六十五回ゆめ半島千葉国体に出場する。各県の選手の健闘を祈ります。

第十二回関東地区 スポーツクライミング競技会

高体連登山専門部　岩崎年伸（桐生工業高校）

日時
平成二十二年十一月十四日(日)

会場
栃木県日光市　今市青少年スポーツセンター

競技種別
男子・女子（年齢区分無し）

競技方法
予選はフラッシング・リード方式、決勝はオンサイトリード方式とする。

成績
◇男子（参加三十二名）
清水崇史　学芸館高校二年
第二十五位
◇女子（参加二十九名）
樋口　栞　前橋女子高校二年
第二十八位
横山千晃　前橋女子高校一年
第二十九位

概要
今年は栃木の日光市今市で行われました、当日はかなり冷え込み選手にとっては体調の管理が難しかった面もあったかと思います。

本県からは当初男女各二名ずつの計四名参加予定でしたが、男子一名が体調不良のため三名の参加となりました。

年齢区分のない大会で中学生が全体の四分の一程度参加しており、またこの中学生の活躍が目覚ましい大会でありました。

選手感想

前橋女子高校二年　樋口　栞

この大会に参加し、私が一番強く感じたことは、参加している選手は中学生が多く、レベルが非常に高いことです。小さい頃からクライミングをしている選手と比較すると、私たちは経験も浅く、まだまだかもしれませんが、高校から始めて、全国そして世界で活躍されている先輩方もいるので、私たちも努力次第ではもっと強くなれると感じました。

また、この大会は、一年生にとって初めてのリードの大会でしたが、力を出し切ってくれたと思います。私たちは今回の反省を活かし、これからも練習に励みたいと思います。

今後も様々な大会が沢山あると思いますが、大会ごとに成長し、成績を残せるようになりたいと思います。

挑み続けた田辺に

群馬岳連副会長　八木原　圀明

昨二〇一〇年はダウラギリI峰が初登頂されて五十年の記念すべき年だった。五月、その記念式典に参加した私は、ポカラの地からこの山に奪われた七十八年の阿久澤、深沢、小林、小暮さん、〇一年の星野、品川、福本の七人の先輩、後輩を想い、偲んだ。秋九月、その山からまた驚愕の知らせが届いてしまった。

九十一～二、九十三～四のサガルマータ隊員で登頂者である田辺が雪崩にやられたという。同じダウラギリに召された星野龍史、最も恐れていたアンナプルナの雪崩に打たれた名塚秀二、そして田辺と群馬の冬のサガルマータ南西壁の隊員がまた逝ってしまった。田辺ほどの輝かしい実績を持つ男が、と言葉も無かった。仲間を大事にし、後輩を育てた正統派登山家が…。

アンナプルナ南壁に逝った八十七年の小林、アンペイ、〇四年の北面の名塚を含めたら一〇名である。七十二年のダウラギリ4峰の松井高重郎さんを入れたらあの辺だけで十一名になってしまう。

田辺は名塚の追悼文で、二〇〇一年の秋名塚は冬のローツェ南壁のトレーニングのつもりで行ったダウラで左手に凍傷を負い、カトマンズに戻った名塚に言われた「田辺、ゴメン」のたった一言が忘れられないと書き、結びで「名塚さんにとっても冬季ローツェ南壁登山はそれなりに魅力のある計画だったと思います。アンナプルナで帰らぬ人となったのは残念でなりませんが、これからも名塚さんの足跡を少しでも追える登山を続けて行きたいと思います」と書いた。義理堅くなにもここまで名塚を追う必要もあるまいに、ダウラギリでのこの結果。

1993～4年 冬期サガルマータ南西壁
安全登山祈願祭（右から江塚、後藤、田辺）

田辺のヒマラヤ登山家としての実績は別表をご覧頂くが、特筆すべき記録に九十三年の八〇〇〇m峰ハットトリック、九十七年のK2西陵、そして冬のローツェ南壁。二度の群馬岳連の冬期サガルマータ南西壁登山で冬のヒマラヤの大岩壁に取り憑かれたかのように通う。〇一、〇三と失敗すると〇六年にはついにこの難攻不落を誇った冬の南壁を自らの手で完登させる。

その年のJAC「秩父宮記念山岳賞」を受賞し、年次晩餐会で皇太子殿下の隣で酒を飲んだ話に水を向けると、ちょっと照れくさそうながらも、嬉しそうに話した。一一年一月二十九日の名古屋でのお別れの会には皇太子様からの追悼の言葉も送られた。

2009.11.29「山岳文化 in Gunma」で
講演する田辺　治（於 ベイシアホール群馬）

厳しい山登りを続ける第一線登山家にとり、甘受せざるを得ない最後、結末と覚悟はしていても残念。何十人の親しかった優秀な登山家を見送ったことか。「登山家の業か」などと他人事のように言葉では言えても凄絶すぎる。

ヒマラヤ登山を、いや日本の登山界を着実にリードしてくれるであろうと期待をしていた田辺、それも今は空しい。これからは田辺の業績を継ぐ後輩達が、何事もなく活躍できるよう、遥か彼方から見守ってやってほしい。山で死ねない私は田辺や山に逝った多くの仲間達のことを語り続けることにする。

田辺　治

（たなべ　おさむ　一九六一・一・四～二〇一〇・九・二十八）

信州大学農学部卒・信州大学士山岳会
東海山岳会・日本ヒマラヤ協会
群馬県山岳連盟・日本山岳会東海支部
＊これらの組織で山登りをしながら、登山ガイドを始める。

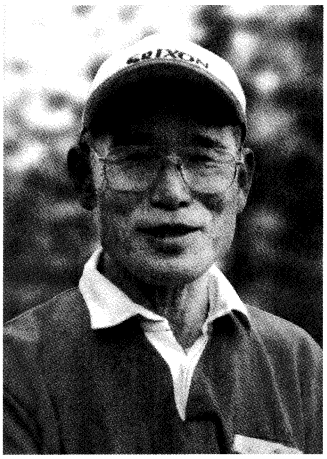
主な登山歴

1 一九八二年：ガネッシュ・ヒマールIII峰
2 一九八七年：ラプチ・カン初登頂
3 一九九〇年：ガッシャブルムII峰登頂
4 一九九三年：ブロード・ピーク、チョー・オユー、エベレスト南西壁冬期初登攀
5 一九九四年：ギャジ・カン初登頂
6 一九九五年：マカルー東稜から北西稜初登攀
7 一九九六年：ラトナ・チュリ初登頂
8 一九九七年：K2西稜から西壁初登攀
9 二〇〇二年：ガッシャブルムI峰登頂
10 二〇〇三年：シシャパンマ中央峰登頂
11 二〇〇五年：ナンガ・パルバット登頂
12 二〇〇六年：ローツェ南壁冬期初完登
13 二〇〇九年：ネムジュン西壁初登攀
14 二〇一〇年：ダウラギリI峰で雪崩により行方不明。享年四十九歳

忘己利他の人

群馬岳連参与　村上泰賢

（高体連登山専門部参与・元委員長）



大澤　清氏

（一九四二（昭和十七）年～二〇一〇（平成二十二）年）

群馬県山岳連盟参与・高体連登山専門部参与

元群馬県山岳連盟副会長（平成十年五月～平成十六年五月）、同常任理事（国体部、昭和五十九年六月～昭和六十三年七月）、同理事（国体部、昭和六十三年七月～平成四年六月）、同参与（平成十六年五月～）

高体連登山専門部委員長（平成二年～五年）

登山歴

玉村町出身。前橋工業高校山岳部で吉田宰治教諭の指導を受ける。卒業後、母校の教諭となり山岳部顧問として生徒の指導にあたり、同時に高体連登山専門部、群馬県山岳連盟の役員として活躍する。

鹿児島国体（屋久島）の監督（昭和四十七年）を務め、優秀賞。

国内各地の登山はもとより、一九八〇年に群馬高体連登山部初の海外登山として行われたインドヒマラヤ・シャルミリ峰（六〇九六m）初登頂の副隊長、一九八五年ガンガバル地域トレッキング隊長、隊員として一九九二年ストック・カンリ峰、一九九七年と一九九八年インドヒマラヤトレッキング、二〇〇〇年アフリカ・キリマンジャロ峰へ登る。

二〇一〇年十月、静岡県のグループに参加してネパールトレックの帰途、ポカラで夕食後行方不明となり、九日朝、町の道端に倒れているのが発見された。病死と推定。

追悼

一九八〇年に群馬高体連登山部初の海外登山で、インドヒマラヤのCB53峰をめざしたとき、副隊長として隊長の私を献身的に盛りたててくれた。ほとんどの隊員が初の海外登山で、全国各県の高体連登山部の組織でも本格的な海外登山はない時期だから、準備や調査や手配しておく事柄、訓練すべき内容、すべてを手探りかつ手作りですることになった。そんなとき、積極的に提案し、事前準備の労をいとわず、裏方に徹して一つずつ進めてくれた実行力は素晴らしいものがあった。

現地に入って、氏はベースキャンプ地の偵察に氷河を上がって戻ると、①氷河上のCB53峰への枝氷河の出合い付近までベースキャンプ地を伸ばせれば、後の展開が楽になる。②枝氷河の出合は絶壁のように切れた氷壁だが、脇のガラ場を何とか登れそう、と二つのポイントを報告してくれた。

さっそく馬方と交渉し、「馬を氷河上に上げるのは、滑って心配」と渋る馬方を説き伏せ、荷揚げを開始した。我々が先に歩いて、馬が通れるルートを探して目印をつけてゆく。馬の行列の最後に大澤氏がついて追い上げる形となった。氷塔やクラックのアイスフォール地帯を縫って氷河上に登りつくあたりで「馬方も心配するだろうから、この辺で」と荷を下ろしかけると、はるか後ろの馬の行列の最後からトランシーバーで「ダメ、ダメ！、もっと先！」とどなる声が響いた。あわててザックをかつぎ、しばらく歩いてそろそろいいか、と止まりかけると再び、ダメ！の声が響く。これを三回ほどくり返して、四回目にようやくベースキャンプ地が決定した。

幸い全員の初登頂を果たして成功し、「シャルミリ」（恥ずかしがり屋の娘さん）という命名をIMF（インド登山財団）に届けることができた。成功の要因としてBC予定地点まで強引に馬を上げられたことが、大きい。目標を達成するために、途中で曲げない、後に引かないという信念を示した彼に、隊員から「馬方泣かせの大澤」という敬称が付けられた。

「忘己利他（ぼうこりた）」という言葉がある。己れ（の損得）を忘れて他人のために動く人、のことをいう。ふだんの人となりはまさにこの言葉が当てはまる。個人的には、ファミリーを護るために正面から戦う姿も見せてもらったし、高体連の登山関係者もみな何らかの形で「大澤さんに世話になった」と思っている。だから、今回の訃報を聞いて驚き、あわて、どうしていいか途方に暮れた。

若い教師が文部省登山指導者講習会に出るよう勧められたが立山地域の地形図を持っていないと聞くと、前橋で買って館林へ届け、「会議があるから」とお茶も飲まずに前橋へ帰っていったという。手先が器用で彫金や七宝焼、レザークラフト、畑で作った野菜など、大澤さんから物をもらったという仲間も多い。反面、「拾いの大澤」でもあって、山道に落ちているくねった枝、曲った根っ子から、どうするのと聞きたくなる物まで、大事そうに持ち帰っていた。

今でも我が家には、つられてこっちの方が趣がいいと競って拾ってきた北岳大樺沢の石がある。それをみるたび、語り合い笑いながら歩いたたくさんの山の思い出がよみがえる。本当にもっといっぱい一緒に登りたい男だった。胸が痛む。

自然観察会を担当してみて

群馬岳連自然保護委員会　三田治宣
（太田山岳会）

期日　平成二十二年八月一日(日)
会場　尾瀬大清水平湿原

自然保護委員会へ入って三年目、毎年の恒例であり主要な行事の一つである自然観察会の担当を任された。今年度早々である。去年、一昨年は下見と当日引率のみの、どちらかというとお気楽参加だったが、担当となるとこうはいかないだろう。

まずは、日山協の山岳共済の補助金助成対象にするための要件を満たさなければならないことが一番であり、果たしてそれだけの人数が集まるのだろうか。そのための宣伝はどうしたらいいのかわからないことが多く、不安である。

まだ尾瀬で実施するとは確定せず、開催要項もまとまっていないうちに申込ハガキが届き、とても焦った。

前任の須田さんから、今までの観察会の資料を引き継ぎそれをみてみた。毎年、参加者のうち半分の方がリピーターとして参加してくれていることが分かった。とてもありがたい。

まずは、今までの参加者に案内ハガキを送ることから始めた。山道具屋さんにもチラシを置かせてもらった。

早速いただいた申込ハガキには、一言添えてあったり押し花がちりばめてあったりして、とても励みになった。また、その反面満足してもらえる観察会にしなくてはというプレッシャーもかかってきた。

六月第三土曜日の「尾瀬ゴミ持ち帰り運動」の参加後、観察会の下見を兼ね一泊で尾瀬沼周辺の散策と燧ケ岳ピークハントをしてきた。大清水平湿原までの道は雪に埋もれていて踏み跡もなく、木に付いている目印とGPSでルートファインディングを行った。程なくぽっかりと開け、湿原に出られた。天気は快晴。空の青さと湿原の緑の中に朽ちかけている木道が一筋。そんな情景を独り占めでき、心に焼き付けてきた。六月半ば過ぎでも樹林帯はまだ雪、実施日は八月一日なので今日の下見は参考にならないかもしれない。また、ここまで来るには健脚じゃないときつい。尾瀬というネーミングだけで安易に参加されると大変なことになるなと思った。

六月末は当委員会の委員長である斎藤さんに連れられ、上毛新聞社の副社長に会い、募集記事を載せてもらうよう依頼してきた。

やがて二週間以上経ち掲載の約束の時期を過ぎたが、記事の検索をかけても見つからない。これはどこかで滞っているなと思い、副社長の名前を出し、遠まわしに催促のメールを上毛新聞広報へ出した。効果てきめん！翌日募集記事が載った。しかも「おくやみ欄」の隣に三段見出し付で。この新聞の購読者のほとんどがこの欄を見るのだろうか。この募集記事がとても目についた。その翌日から申込ハガキが一気に増えた。申し込まれた方々は、県内各地、老若男女、年齢は三十歳～八十歳代まで。目標参加人数をクリアできた。

そしてとうとう八月一日、開催日当日である。天気は晴れ時々曇り。役員十一名、講師三名、一般参加四十二名、合計五十六名の参加となった。

受付をするため集合時刻一時間前に着いたが、既に待っている方がたくさんいて恐縮だった。尾瀬に精通された三人の講師と高崎山岳会で計四班に分かれ、大清水～三平峠～尾瀬沼～大清水平湿原の往復を歩いてもらった。やはりコースとしては長く、疲れてきている人も見受けられ、尾瀬沼までの途中棄権グループを提案しようとしたが、全員大清水平湿原まで行くことになった。その分、湿原では大休憩をとり、各自自然観察を行ってもらうこととなった。参加者の中には学識者、自然保護団体関係者の方が見受けられ、私みたいなナンチャッテ自然保護指導員は遠く及ばないことを自覚させられた。

復路の尾瀬沼の三平下で休憩中、講師の方にそれぞれ得意分野での話しをしていただいた。その時は参加者全員耳を傾け、一つの輪になった感じがした。とてもいい雰囲気のもと全体写真を撮らせてもらい、後は来た道で大清水まで戻るのみである。けが人や途中棄権する人もなく、全員無事に行ってこられた。解散式後のアンケートを回収し目を通したが、私のとり越し苦労の部分もあり、安心した。

自然観察会は立案から実施まで四か月余りに及び、会計報告や補助金受給まで含めると一年がかりになる。この行事を通して人とのつながりが大変勉強になった。

これからの大切なことは、群馬岳連および自然保護委員会の活動をみんなに知ってもらうことと、人脈づくりだなと思いました。

第三十三回県民登山大会報告　袈裟丸山・特設コースにて

大間々山岳会　福田純一

行動記録

平成二十二年十月二十四日、草木ダム湖畔みかげ原展望地駐車場を開会式場として、一般の参加者百二十八人、役員三十九人合計百六十七人のご参加をいただき実施されました。

受付～羽野会長挨拶・地元みどり市長の歓迎の言葉を頂いた後、岳連会員有志のマイカーに分乗して特設コース登山口となる白倉沢林道へ移動しました。

ススキの海で（林道途中）

ゲート奥の駐車予定スペースにて揃ってから出発の計画でしたが、ゲート直後の傾斜にビックリした方々の進入が遅れ（実はたいしたことはないのですが）揃うまで時間がかかりそうなので八時頃から適宜の人数グループでバラバラの出発となりました。今回の登山は同一コースを全員が往復する設定でしたので、人員確定した班編成なしでも管理できると判断しました。

まず林道終の前半では思いのほか傾斜があり汗をかかせられました。やがて等高線にそって傾斜が穏やかになると弓の手コース（普段多くの人が使う、折り場口からの尾根道）方面の紅葉に色づき始めた風景も眺められ、歩行も快適になります。

一時間ほどで林道終点の広場に達し休憩。最後尾も歩き始めていることを無線で確認しました。ただし、登山口を寝釈迦コースと勘違いしたグループだけが別行動になっています。彼らには岳連会員が連れになっているので後から来てもらうことにしました。

終点の広場を後にするといわゆる登山路です。しばらく白倉沢に沿って進みます。黒木・クマザサの緑と渓流の白さが目を楽しませてくれました。周囲が白樺の純林となる頃、登山路は沢を離れ非難小屋に向かってちょっと急な登りですが、わずかで小屋の建つ気持ちのよい広場で休憩。後発の人たちも大分追いついてきている様子でした。

ここからは前袈裟丸山（マエケサと呼んでいます）への最後の登りで固定ロープや木の根・木の枝に摑まったりしながら進む急傾斜もありましたが、それもまた楽しく小休止一回で先頭グループは十一時二十分頃山頂着、最後尾も三十分遅れ位で到着できました。

下山は同ルートなので迷うことはないと考えていましたが、体力的にムリと山頂をあきらめて先に下った人が非難小屋下から特設コースに入らずトラバースを続けるコース（正規ルート外のハッキリしすぎる踏跡なのですが）を進んでしまい、途中気づいて戻ってくるハプニングがありました。

登りでは目につかなかった黒木の中の紅葉・黄葉の色を楽しみながら下り、再び湖畔の駐車場に戻ると準備されていた温かい豚汁のサービスが迎えてくれました。

救急箱の世話になることもなく閉会式も済ませ、十五時頃の解散となりました。

特設コースについて

今回「ぜひ袈裟丸山で実施したい」はホスト役の私たち大間々山岳会も岳連も望むことでした。

しかし、既存の登山コースでは老若男女の一般参加者に五時間程度で往復できないのが問題でした。

そこで白倉沢林道ゲートを開けてもらいアプローチと考えました。

四月からルート探しを始め、五

月中旬に決定。山域所有者であるみどり市には「植生保護のため今回のみの使用。大会後は閉鎖」として特設コースとなりました。

六・七月草刈やロープ張りを行い開拓。大型バスは使えないのでアプローチはマイカー乗り合い、開会式はトイレの利用できる、みかげ原展望地駐車場としました。ここでは定期的に特定サークルの活動などが行われているため、行政の協力を得て当日は登山大会参加者以外の利用を避けて頂けるよう事前に案内を掲げていただきました。

前袈裟丸山　頂上にて

御礼・反省・雑感

予想外の大入りに、理事会で事前確認していなかった岳連会員にも当日マイカー分乗をお願いしましたが快く受けていただきました。

高崎山岳会・新井さん御一行は例年どおり中型バスで来られ、まとめて登山口まで移動できました。

沼田山岳会・見城さんは頼まずとも無線を持ってこられ、自分は歩かないからと、中継局を買って出てくれました。各各、御礼申し上げます。

大いに反省すべきは、ホストである当会です。大会十日前で申し込み者八十二名だったため配車・移動を気楽に考えていたのですが、予想外の人数となり分乗の世話に追い回され、先導案内車のスタートが後手になり整然とした移動ができませんでした。寝釈迦コース方面に行ってしまったグループも車間が空いたことが災いしたものと考えます。

また同一コースの往復ではありますが分岐点には案内人を貼り付けておくべきでした。いろいろとシミュレーション不足でしたが無事終了できてホットしています。

大会の記念品として今回はバンダナを用意しました。例年作成していたバッジは毎回余りが多く、最近は予算の半分くらいが死金になっていました。バッジより単価が安く、又、参加人数確定後で手配が間に合う品ですのでムダが出ませんでした。実用品ですので参加者にも好評のようでした。

袈裟丸山は春のツツジが有名で近年は京浜地区などからも多くの登山者を迎えています。その結果、正規ルート外に踏跡がつきすぎており、みどり市では植生保護の為踏跡に入らないよう規制看板を掲げました。今回好評でした特設コースも、同趣旨で閉鎖しました。

今後は、折り場登山口から弓の手を辿るのが一般的コースとなります。このコースでは土留柵が土砂の流出でハードル越え状態になっていましたが大間々山岳会では市の委託を受け、段差をならして歩きやすい登山道に改修しましたので、ぜひお出かけください。

クマザサの海で（頂上直下）

50th Anniversary
JMA
守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、安心して登山ができる保険ですか。

自分だけは安全、と思いがちですが、
年間遭難者数は約2,000人です。

■平成20年 山岳遭難の概況
（警察庁生活安全局地域課 平成21年7月3日）

発生件数 1,631件
遭難者数 1,933人
死者・行方不明者 281人

詳しくは ➡ www.jma-sangaku.org

お問い合わせは

日本山岳協会山岳共済会
事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金　10:00～17:00（土・日・祝日除く）

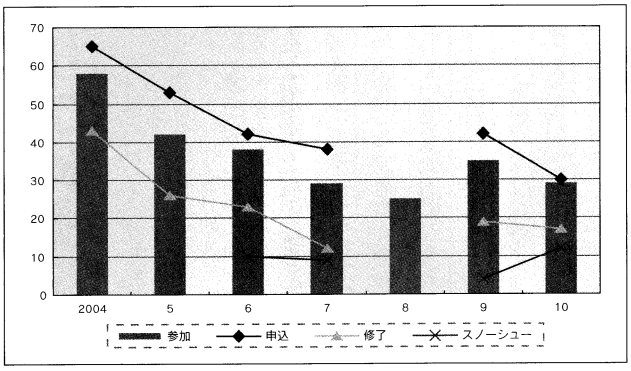
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL：03-5958-3396　FAX：03-5958-3397
E-mail：sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

登山教室　最近の流れ

指導委員会副委員長　高橋守男

三十名の申込者・十七名の修了者と熱心な指導をして下さった十六名の講師の方々に支えられ、恒例の登山教室を無事終えることができた。今年の概要は最後にまとめながら、今回は最近七年間の様子を概観してみた。なお、平成二十年度（08年）は、文科省主催の中高年安全登山指導者講習会の予行も兼ねて実施した。

①参加者数の推移



※五十人を超える年もあったが、最近では参加者が二十人から三十人で安定してきている。

②座学内容の推移（数字は年度）

04　地図 天気の読み方
　　安全登山と事故
05　登山と体力
　　山で死なない 読図
06　読図コンパス
　　岩と鎖場 救急 ビバーク
07　山の危険 読図
　　水分補給 自然保護
08　読図
　　テーピング 遭難救助
09　読図 食糧計画 自然保護
　　テーピング 危機対応
10　読図 緊急時対応 自然保護

北毛青少年自然の家駐車場にて

※読図とコンパスの使い方を中心に置きながらも危険への対処の仕方等を取り上げてきた。

③山中での実技内容の推移

04　榛名山 子持山（雨座学）
05　赤城山（分校テント泊）
06　榛名山 妙義山石門
07　ガンゴー新道 小野子山
08　榛名山 谷川岳（小屋泊）
09　赤城山 平標山（小屋泊）
10　榛名山 小野子山

※数年おきに泊を実施し、生活技術の講習と親睦を深めた。

④スノーシュー講習の推移

06年	07年	08年	09年	10年
10人	9人	4人	12人	予定

06年から始めたが、積雪期の講習としてほぼ定例化されつつあり、冬の登山講習の一つとして更に参加者を増やせる余地があると思われる。

⑤講師数の推移

毎年十五～二十名の指導員が講師を務めている。陣容は例年あまり変化がなく、もっと多くの方々に交代で出てもらい、指導講習委員会の活動として位置付ける必要があろう。

⑥今後の課題

若者も対象にしながら、精選された内容で、多くの指導員が分担しながら登山教室を実施していくための工夫が望まれる。また、自然保護委員会以外にも、遭難対策委員会・海外研究委員会などの岳連の他の委員会に登山教室にいかに関わってもらうかも今後の課題である。

今年度の講習内容および講師

九月一日(水)　開講式　二十九人
「読図」　講師　山田
九月五日(日)　二十人
実技「榛名山」
九月二十九日(水)　二十七人
「緊急事態への対応」　講師　小暮
十月三日(日)　二十三人
実技「子持山・小野子山」
十月六日(水)　二十六人
「登山と自然保護」　講師　斉藤
「Q&A」　講師　全員
「修了証交付」
角田（前橋）、久保田（太田）、吉田・星野・小暮（境町）、斉藤・佐藤（松井田）高橋（沼田）、新井・山田・登坂・関口（高体連）、佐藤・阿部（群馬ミヤマ）、鹿田（桐生）、山越（群馬登高）

山の水場の水質調査

群馬岳連自然保護委員会　松本　博

もう十年以上前になるんだろうか、「大樺沢の水に大腸菌が多く見つかった」とマスコミで取り上げられていた。登山者が大勢押し寄せるためのオーバーユースと貧弱なトイレが原因だったように記憶している。ここ数年、群馬県が水場の水質調査を行うにあたり、自然保護委員会は水場から採水の協力をしてきた。その時の調査結果では、水場に問題があるようなところは見当たらなかった。

しかし、山の水場の水質調査をしていないところは、まだたくさん残されていた。委員会で検討した結果、群馬県環境森林部環境保全課に協力をお願いし、三年間で三十箇所程度の調査をすることになった。群馬県内で山の地図に水場のマークがあるところを中心に選択し、年十箇所程度を目標に行った。水質調査には、二Lのポリタン、二〇〇gの保冷パック、大腸菌検査用の専用容器、保冷用に発泡スチロールの箱で、一箇所で三kgくらいになる。採水地が遠く宿泊をしたり、行ってみたら水場が登山道から遠くて採水を中止したり、また、採水時期が悪く、水がなかったなどの苦労もあった。

委員会は、「採水機関」、県衛生環境研究所が「検査機関」、県環境森林部環境保全課が「とりまとめ機関」という役割で行った。

水質調査対象項目は、涌水の清浄度（きれいさ）を評価する観点から、五項目とした。①水素イオン濃度指数（pH）：「水の酸性、アルカリ性の度合い」。②電気伝導度。③総有機態炭素（TOC）：水中にある有機物を全炭素量であらわしたもの。④硝酸性窒素、亜硝酸性窒素。⑤一般細菌。

「谷川岳をはじめ登山の名所の多い群馬県では、山岳地域にたくさんの涌水が見られます。これらの涌水は、群馬県を流れる河川の源流となっています。そのため、山岳地域における涌水の実態を把握しその保全を図ることは、首都圏の水源県である群馬県にとって重要なこととかんがえられます」。

「調査結果は、採水日時点での涌水の清浄度（きれいさ）を限られた項目で評価したものであり、飲用の可否を示すものではありませんので、ご注意ください」、「おおむね清浄な状態の水質が保たれていること」がわかり、「群馬県の水環境がこれら豊かな自然環境に支えられていることを改めて実感」し、「このように豊かな涌水資源に恵まれていることはすばらしいことですが、一方でさまざまな要因により、汚染されてしまう可能性もあります。そのため、私たちひとりひとりが、涌水資源の大切さを自覚し、今後とも、その保全に努めていく必要があります。」（「」内は、県がまとめた報告書から、抜粋）

四阿山　嬬恋清水

平成二十二年になって、『群馬の山の水場』水質調査報告書として、採水地の写真なども見られるようなものを、五〇〇部を委員会費用で発行し、県内各機関、山岳関係、理事、日山協自然保護関係や総会などで配布した。

採水メンバー

委員長　小泉俊夫（前橋）、委員　寺内正明（前高OB）、池田登（ミヤマ）、須田久男（桐生）、斉藤長作（松井田）、松本　博（前高OB）、高橋信幸（前高OB）、三田治宣（太田）、八木原圀明（ミヤマ）、長谷川　勇（中之条）、馬場保男（ミヤマ）、斉藤次江（松井田）

平成19年度　山岳地湧水水質測定結果

No.	採水地点	緯度	経度	採水日	pH	電気伝導度（μS/m）	TOC（mg/L）	硝酸性窒素（mg/L）	亜硝酸性窒素（mg/L）	一般細菌（個/mL）
1	至仏山　一杯清水	N 36°54′42″	E 139°11′20″	2007/9/9	7.7	55	3.4	0.07	＜0.01	＜30
2	谷川岳　大障子避難小屋水場	N 36°49′32″	E 138°53′46″	2007/9/17	6.8	16	＜0.1	0.3	＜0.01	＜30
3	谷川岳　毛渡乗越　下部の水場	N 36°48′54″	E 138°51′57″	採水せず						
4	西上州　稲含山　秋畑稲荷社下の水場	N 36°10′14″	E 138°49′45″	2007/9/18	6.9	49	0.2	0.4	＜0.01	＜30
5	裏妙義　三方境下入山側	N 36°18′36″	E 138°42′31″	2007/9/16	7.1	68	0.8	0.6	＜0.01	＜30
6	袈裟丸山　前袈裟と小丸山中間の避難小屋水場	N 36°27′28″	E 139°20′28″	2007/9/30	6.9	18	0.7	0.3	＜0.01	47
7	武尊山　手小屋沢避難小屋水場	N 36°48′50″	E 139°07′16″	2007/9/9	7.0	20	0.8	0.3	＜0.01	86
8	武尊山　武尊沢の水場	N 36°48′09″	E 139°07′05″	2007/9/9	7.3	37	0.5	0.3	＜0.01	＜30
9	大峰山　分水不動	N 36°43′56″	E 138°56′40″	2007/10/14	7.5	45	0.3	0.9	＜0.01	＜30
10	西上州　赤久縄（あかぐな）山　栗木平上の水場	N 36°08′38″	E 138°51′38″	2007/9/20	7.0	62	0.5	0.7	＜0.01	＜30

平成20年度　山岳地湧水水質測定結果

No.	採水地点	緯度	経度	採水日	pH	電気伝導度（μS/m）	TOC（mg/L）	硝酸性窒素（mg/L）	亜硝酸性窒素（mg/L）	一般細菌数（個/mL）
1	尾瀬　鳩待峠から山の鼻の途中の沢の水場	N 36°54′18″	E 139°11′51″	2008/9/24	7.6	45	0.12	0.07	＜0.01	＜30
2	丹後山　頂上直下の水場	N 37°02′42″	E 139°05′34″	中止	－	－	－	－	－	－
3	大水上山　三角雪渓の最初の一滴	N 37°03′22″	E 139°05′47″	中止	－	－	－	－	－	－
4	谷川岳　清水峠の水場	N 36°53′39″	E 138°56′50″	2008/9/7	6.8	15	0.76	0.07	＜0.01	46
5	谷川岳　蓬峠の水場	N 36°52′42″	E 138°56′20″	2008/9/7	6.4	12	0.46	0.21	＜0.01	370
6	谷川岳　マチガ沢上部の水源	N 36°50′01″	E 138°55′51″	2008/9/16	7.2	34	0.19	0.27	＜0.01	＜30
7	前武尊岳　御沢の水場	N 36°47′20″	E 139°09′15″	2008/8/31	6.9	16	0.60	0.23	＜0.01	＜30
8	鳴神山　東面　水場	N 36°29′19″	E 139°21′47″	2008/9/7	6.6	47	0.13	1.7	＜0.01	＜30
9	旧中山道　弘法の井戸	N 36°21′30″	E 138°42′40″	2008/9/21	7.2	120	0.20	2.5	＜0.01	＜30

丹後山　頂上直下の水場　　９月採水に行くが、水場に水なし。採水不可
大水上山　三角雪渓の最初の一滴　　雪渓が消失していて、採水不可。
谷川岳　蓬峠、清水峠の水場　　一般細菌が多かったのは、朝６時前に採水し、長時間持ち歩いた、簡易保冷パックが充分でなかったため細菌が、増殖したものと思われる。

水道水質基準	5.8～8.6	－	≦5	≦10	≦10	≦100

地下水環境基準	－	－	－	≦10	≦10	－

※≦は、この数値以下であることを示す。

平成21年度　山岳地湧水水質測定結果

No.	採水地点	緯度	経度	採水日	pH	電気伝導度（μS/m）	TOC（mg/L）	硝酸性窒素（mg/L）	亜硝酸性窒素（mg/L）	一般細菌数（個/mL）
1	谷川岳　ぶなの湧水（旧道）	N 36°51′10″	E 138°56′31″	8/9	6.5	19	0.10	0.63	＜0.01	＜30
8	角間山　角間清水	N 36°26′40″	E 138°24′53″	8/9	6.3	34	0.09	0.63	＜0.01	＜30
10	四阿山　嬬恋清水	N 36°31′45″	E 138°24′46″	8/9	6.7	27	0.22	0.08	＜0.01	＜30
6	赤城山　鈴ケ岳下部、石碑水場	N 36°33′01″	E 139°09′01″	8/16	6.9	55	0.16	1.5	＜0.01	＜30注1)
5	尾瀬　笠が岳　咲倉沢頭避難小屋上の水場	N 36°51′36″	E 139°09′07″	8/23	7.0	60	0.19	0.16	＜0.01	＜30
11	三壁山　登山道　急坂	N 36°43′12″	E 138°37′45″	8/23	7.1	23	0.46	0.07	＜0.01	＜30
3	稲包山　赤沢スキー場からの登山道	N 36°43′44″	E 138°48′14″	8/23	6.2	46	0.40	0.34	＜0.01	＜30
9	草津白根　桜清水（芳が平）	N 36°38′47″	E 138°33′44″	8/23	4.7	54	0.56	＜0.05	＜0.01	＜30
4	子持山　屏風岩上部	N 36°34′38″	E 139°00′12″	8/26	6.7	76	0.20	2.3	＜0.01	＜30注1)
2	谷川連邦　大源太山の赤谷側登山道	N 36°47′03″	E 138°50′41″	8/30	6.7	19	0.71	0.32	＜0.01	38
12	根本山　籠堂跡上部	N 36°33′07″	E 139°26′40″	8/30	5.6	39	0.64	0.5	＜0.01	＜30
7	袈裟丸山　折場登山口	N 36°35′31″	E 139°20′55″	9/2	7.7	55	0.09	0.14	＜0.01	＜30

注1)：種類は不明だが、真菌類が検出された。一般細菌の定義に真菌類は含まれていないため、検出された真菌類は報告値に反映されていない。

水道水質基準	5.8～8.6	－	≦5	≦10	≦10	≦100
地下水環境基準	－	－	－	≦10	≦10	－

※≦は、この数値以下であることを示す。

連盟ピックアップ

◇月岡武久氏（群馬岳連参与）

平成二十二年秋の叙勲において永年の消防功労により「瑞宝単光章」を受章された。

◇小林次郎氏（群馬岳連参与会長）

永年の戦没者遺族援護事業の功績により平成二十二年度厚生労働大臣表彰を受賞された。

◎月岡武久参与叙勲受章と小林次郎参与会長厚生労働大臣表彰受賞祝賀会開催される

◎両氏の栄誉をお祝いするとともに、今後の益々のご健勝とご多幸をお祈りするために、群馬県山岳連盟羽野順一会長が発起人となって、平成二十三年三月八日（火）前橋ホテルにおいて祝賀会が開催され、中曽根弘文顧問秘書山崎学氏他多くの群馬岳連関係者から祝福を受けた。

◇女屋等志氏（群馬岳連常任理事兼事務局長）

平成二十二年度群馬県体育協会長賞・スポーツ功労者賞を受賞された。氏は、昭和五十五年六月から常任理事、昭和六十一年六月から常任理事兼事務局長として永年にわたり山岳連盟の運営に寄与、群馬県登山界の発展に尽力されている。特に昭和五十八年あかぎ国

体山岳競技では、選手育成強化と競技運営を担当、総合優勝に貢献された。また、本県で開催された国体関東ブロック大会山岳競技や、山岳連盟が開催してきた山田昇記念杯登山競争大会では、大会運営の中心的責任者として活躍された。

表彰式は、二月十日、群馬県総合スポーツセンター内ぐんま武道館で行われた。

◇長谷川美鈴氏

平成二十二年度群馬県スポーツ顕彰優秀選手賞を、また、平成二十二年度群馬県体育協会長賞の優秀選手賞を受賞された。ともに、昨年のスポーツクライミング競技JOCジュニアオリンピックカップの女子ジュニアの部優勝を果たしたことによるものである。

群馬県スポーツ顕彰表彰式は、二月四日、群馬県昭和庁舎で、群馬県体育協会長賞表彰式は、二月十日、群馬県総合スポーツセンター内ぐんま武道館で行われた。

さらに、第三十六回上毛スポーツ賞（一般・大学生部門）を受賞された。長谷川選手は、昨年のスポーツクライミング競技第十三回JOCジュニアオリンピックカップ大会女子ジュニアで優勝し、第九回ユースB優勝、第十一回ユースA優勝とJOCジュニアオリンピックカップ大会の三カテゴリで優勝を果たした。この大会の三カテゴリ優勝者は長谷川選手が全国で二人目ということで、群馬岳連が推薦したものである。贈呈式は、三月二十九日、上毛新聞社・上毛ホールにて行われた。

◇星野光氏（前群馬岳連会長、現群馬県ゴルフ連盟名誉会長）

平成二十二年度群馬県体育協会長賞スポーツ功労者賞を、また、第三十六回上毛スポーツ賞スポーツ振興功労者賞（ともに群馬県ゴルフ連盟推薦）を受賞された。

◇日本山岳協会の創立五十周年記念式典並びに祝賀会が、平成二十三年一月十五日、東京・芝公園の東京プリンスホテルで開催された。

記念式典において、永年にわたり日本の登山界に尽力された功績を称える功労者表彰が行われ、表彰状が六九四名に授与された。本県被表彰者は次の方々である。

（順不同・敬称略）

羽野順一、八木原圀明、角田二三男、竹山繁男、長谷川　勇、須田栄一、松永幸雄、阿部　源、後藤文明、小泉俊夫、岡安茂能、清水裕千、町田幸男、小暮文彦、吉田直人、茂木　稔、松田龍彦、佐藤光由、赤松久宇、宮崎　勉、寺内正明、小林達也、高橋守男、新井邦光、堀越利通、福田純一、久保田一美、月岡武久、小林次郎、星野　光、太田忠行、水野金太郎、女屋等志。

◇みやま文庫『登山家W.ウェストンと清蔵』刊行される

明治から大正期にかけて、英国聖公会の宣教師として布教活動を行うかたわら日本各地の山に登り、『日本アルプスの登山と探検』などを著して、日本アルプスを世界に紹介したウォルター・ウェストン。彼の登山の足跡とそれを支えた旧妙義町生まれの山案内人、根本清蔵との心の交流が、鮮明に描き出された書である。著者は、群馬県山岳連盟元副会長・松井田山岳会顧問の小林二三雄氏。

（みやま文庫は会員制で、一冊だけ購入する場合は一五〇〇円。問い合わせは同文庫事務局（県立図書館四階、電話〇二七・二三二・四二四一）へ。）

味のりんご
アンナプルナりんご園
沼田市上久屋町 1231　TEL・FAX　0278-23-6802
http://annapurna.jp
Annapurna

総合建設業　空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社　渋川市有馬164
☎（0279）24－7111㈹

工事部　渋川市赤城町北上野203
☎（0279）56－8111㈹

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223
伊勢崎市小泉町252
☎　0270-62-2012

（有）山とスキーの店　石　井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町3448-2
TEL 0270-21-8025　FAX 0270-21-8026